

XII 地域連携

- * 教育学部地域連携委員会が主導しての活動、地域組織との連携協定に基づく活動等、地域連携委員会が把握している情報を記載。
- * 個人の活動は、「教員の研究・社会貢献活動」の項を参照。
- * 平成 21 年 3 月 31 日発行「教育学部における地域連携活動」（教育学部地域連携委員会編）参照。

1 協定・覚書等に基づく、各教育委員会や組織との連携活動

1-1 水戸市教育委員会との連携による学校支援学生ボランティア派遣

平成 16 年度から水戸市教育委員会と教育学部との協定（その後水戸市と茨城大学との包括協定）に基づき、水戸市内の幼稚園、小学校、中学校に教育活動支援を目的に学生ボランティアの派遣を行っている。水戸市側は水戸市総合教育研究所、大学側は附属教育実践総合センターが窓口になっている。21 年度は、新型インフルエンザの感染騒動もあり、学生を受け入れる学校園に休校、休園が相次ぎ、また学生も感染者が多数出たため、派遣実績が昨年を下回った。

平成 21 年度実績

派遣学校	幼稚園	9 園	派遣人数（延べ数）	幼稚園	63 名
	小学校	16 校		小学校	104 名
	中学校	4 校		中学校	8 名
	計	29 校		計	175 名

1-2 鹿嶋市教育委員会への協力事業

平成 17 年 10 月に茨城大学と鹿嶋市との間で連携協定が締結され、18 年から教育学部として、教育分野の連携活動を開始した。21 年度は、協定の主旨に基づき、鹿嶋市の教育向上を目的に、市内 2 校において教員研修事業を実施した。

市立大野中学校	キャリア教育についての研究協議	望月厚志	平成 22 年 2 月 26 日
中野東小学校	算数教育	笠原勇	平成 21 年 11 月 4 日

1-3 茨城県教育研修センターへの協力事業

平成 17 年度に茨城県教育研修センターと教育学部との間で締結された覚書に基づき、研修センターで実施される教員研修のうち、中核的な「10 年経験者研修」に講師を派遣した。平成 21 年度 10 年経験者研修の講師は以下の通りである。

河田 史宝	「男女共同参画社会について」（小・中）	平成 21 年 7 月 7 日
瀧澤 利行	「教朗」のメンタルヘルスについて」（小・中）	平成 21 年 7 月 7 日
新井 英靖	「教材教具の工夫とポイント」（特）	平成 21 年 10 月 6 日
東條 吉邦	「自閉症児の理解と指導」（特）	平成 21 年 10 月 6 日

上地 勝	「生活習慣病の予防」(養)	平成 21 年 7 月 7 日
守屋 英子	「児童生徒の発達課題」(養)	平成 21 年 8 月 21 日
上地 勝	「健康教育の在り方」(養・栄)	平成 21 年 11 月 5 日
上地 勝	「健康教育の方法」(養・栄)	平成 21 年 11 月 5 日

1-4 茨城県近代美術館との連携事業

教育学部と茨城県近代美術館との協定に基づき、以下の連携事業を実施した。

- (1) 子どものための造形ワークショップとの連携ー 「総合演習」の授業を通して
7 月 25・26 日実施 授業履修学生 6 名により実施 実施担当：島田裕之先生
- (2) ミュージアムシアターの広報協力
ポスターを 9 枚制作 実施担当：島田裕之先生
- (3-1)美術館での見学授業実施「図画工作科内容研究」
5 月 24・30・6 月 7 日に計 6 回 参加学生数 132 名
実施担当：寺本輝正、島剛、片口直樹、島田裕之先生
- (3-2)美術館での公開授業実施
「美術と言語活動」
11 月 28 日 参加数 94 名 実施担当：小泉晋弥先生
「近世ベルギー絵画の中の鏡ーファン・アイクからクノップスまで」
2 月 6 日 参加数 92 名 実施担当：甲斐教行先生
※上記 2 授業は美術館主催事業「美術館アカデミー」として実施
- (4-1) 教師のための美術館セミナー開催
「言語活動を伴った鑑賞ー新学習指導要領の考え方」11 月 28 日
参加数 33 名 実施担当：小泉
- (4-2) 伝統文化シネマ新作上映会
「うつわに託すー大西勲のきゅう漆」
7 月 12 日 参加数 273 名 実施担当：島田
共催 (財) ポーラ伝統文化振興財団
- (4-3) 親子で楽しむワークショップ
「親子で作る不思議な世界」
3 月 27 日予定 実施担当：片口直樹先生

1-5 東海村総合型地域スポーツクラブへの支援事業

教育学部教員は、東海村をフィールドにして、様々な分野で活動してきた。その全体像を把握するのは困難だが、スポーツ関係活動は、昨年から総合型地域スポーツクラブへの支援活動にまとめられた。

2 教員研修事業・地域の教育向上策への協力

2-1 神栖市教育委員会との協力連携活動

平成 20 年度より神栖市教育長からの依頼を受け、連携事業を開始した。神栖市は市内小中学生の学力向上に強い意欲を持ち、茨城大学との連携を求めている。

授業研究および研究発表についての助言、指導

①算数教育

- ・講師 笠原 勇 先生
- ・平成 21 年 10 月 23 日開催・市立柳川小学校
- ・テーマ「主体的に考える児童の育成～算数的活動の指導の工夫を通して～」
- ・市内小中学校教員 68 名参加

②キャリア教育

- ・講師 望月 厚志 先生
- ・平成 21 年 11 月 27 日開催・市立波崎第一中学校
- ・テーマ「進んで表現しあい、自他理解を深める生徒の育成～伝え合い、話し合いを中心としたキャリア教育の実践を通して～」
- ・市内小中学校教員 61 名参加

③神栖市第 3 回学力向上研修会

- ・講師 笠原 勇 先生
- ・平成 21 年 12 月 11 日開催・神栖市保健福祉会館
- ・テーマ「全国学力・学習状況調査結果を学力向上にどう生かすか」
- ・市内小中学校教務主任 24 名参加

学力向上プラン策定委員会 於・神栖市教育委員会会議室

昨年から引き続いて開催され、村野井 均、三浦 忠雄先生の両名が委員として参加した。委員会は学校関係者、大学関係者（村野井、三浦）そして公募で選ばれた市民で構成されている。平成 21 年は 7 月 14 日、9 月 25 日、12 月 2 日と開催し、市内児童生徒の学力を向上させる方策を示した提言文がまとめられた。

3 協定・覚書等に基づかないが、実施要項等を確認しての活動

3-1 茨城県教育委員会との連携活動

- ・体育授業サポート事業

保健体育課から、県内小学校の体育授業に対して、指導教員の補助ができる能力と資質を有する大学院生、学生をサポーターとして派遣するよう要請があった。20 年度から開始され、茨城大学と筑波大学が派遣した。21 年度はこれに流通経済大学、茨城キリスト教大学も参加した。実施要項が定められた事業であるが、茨城大学の担当窓口は、吉野 聡先生である。終了後に参加学生には茨城県教育長名の活動認定証が送られた。

21 年度の参加状況は以下の通りである。

水戸市立石川小学校 3 名、水戸市立柳河小学校 4 名、

常陸大官市立村田小学校 3 名、那珂市立戸多小学校 4 名

・学びの広場サポートプラン事業への学生ボランティア派遣

義務教育課が県下の全小学校 4 年生に対して、四則計算の知識・技能の定着を図ることが目的として実施された。実施要項も定められた。教室内で担任の授業をサポートすることが仕事であるが、夏休み中のいつ、何日（最大 5 日）実施するかは、各学校の計画にまかされている。

実施学校数 567 校（県下学校 100%）

参加児童数 25、768 名（94.3%）

サポーター数 1,050 名（延べ 1,086 人）

うち、大学生サポーター 230 名

うち、茨城大学生、大学院生 62 名

・教育学部生 46 名（1 年生 5 名、2 年生 1 名、3 年生 14 名、
4 年生 38 名）

・工学部生 2 名

・教育学研究科 4 名（データは県教委より）

・放課後子ども教室推進事業・放課後児童クラブ推進事業

茨城県教育庁生涯学習課から、放課後子ども教室推進事業と、保健福祉部管轄の放課後児童クラブ推進事業の連携実施に向け、大学、特に支援学生の派遣についての依頼があった。具体的には、各市町村単位で募集をかけるので、大学としては実態把握が困難で、年度末の活動状況報告を要請した。

3-2 県立鹿島灘高校、県立結城第二高校におけるキャンパスエイド活動

茨城県教育委員会高校教育課と連携して、フレックススクールにキャンパスエイトを派遣した。平成 17 年度から県立鹿島灘高校へ、平成 20 年度からは県立結城第二高校への派遣を行っている。大学側の窓口は、大学院学校臨床心理教室であり、定められた実施要項に基づいて、高校教育課と綿密な連携のもと実施されている。

指導教員は、岸 良範・守屋英子（学校臨床心理）、三輪壽二（学校教育）先生であり、鹿島灘高校は週 4 日、結城二高は週 3 日派遣している。

3-3 土浦市教育委員会・発達障害等支援協力事業

平成 20・21 年度文部科学省委嘱事業「発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業」として、特別支援教育グランドモデル地域学生支援員派遣への協力を依頼された。

平成 21 年 9 月 1 日～平成 21 年 12 月 18 日の実施期間中に、学生支援員 4 名をのべ 37 日派遣した。

3-4 銚田市立銚田南中学校研修事業

文部科学省の指定を受けた教育力向上の事業を昨年度から実施している。今年度は具体的な教科目について、教員の研修会を依頼され、実施した。

数学：授業参観、講話、研究協議

講師：笠原 勇先生 平成 21 年 1 月 2 日 10 日

英語：授業参観、講話、研究協議

講師：小林 英美先生 平成 21 年 1 月 2 日 16 日

理科：授業参観、講話、研究協議

講師：大辻 永先生 平成 22 年 1 月 28 日

3-5 茨城県立東海高等学校スタディサポーター派遣

茨城県立東海高等学校より、高校 1 年生の基礎学力の向上を図ることを目的に、スタディサポーターの派遣協力を要請された。高校側と協議を重ねた結果、院生 2 名、学部生 1 名を派遣した。

3-6 東海村立村松小学校なわとび大会協力

地域学校の P T A から行事への協力依頼が茨城県教育委員会スポーツ振興室経由で依頼があった。平成 22 年 1 月 27 日（火）に児童なわとび大会支援（学校公開日に併せた P T A 行事）として、模範演技となわとび指導に学生 10 名が参加した。

3-7 茨城県教育研究連盟への協力

茨城大学、茨城県教育委員会、茨城県教職員組合、茨城県校長会等教育関係諸団体が研究組織をつくり、運営している。連盟会長は茨城大学教育学部長が務めている。主な事業は機関誌「茨城の教育」の発行と研究集会の運営・開催である。平成 21 年度の研究集会には教育学部から以下の 26 名の先生方が、分科会に助言者として参加した。

国語教育	昌子 佳広	外国語教育	猪井 新一
数学教育	笠原 勇	社会科教育	木村 勝彦
理科教育	山本 勝博・大辻 永		
生活科・総合的な学習	大録 匡行（附属中学校）		
技術教育	竹野 英敏	家庭科教育	佐藤祐紀子
音楽教育	藤田 文子	美術教育	金子 一夫・小泉 晋弥
保健教育	石原 研治	体育・保健体育教育	勝本 真
特別教育	安斎 寛（附属中学校）		
道徳教育	生越 達	生活指導	丸山 広人
進路指導	望月 厚志	環境教育	郡司 晴元
情報化と教育	佐藤 晋一・本田 敏明		
幼年期の教育と保育問題	渡部玲二郎		

特別支援教育 鈴木 香代（前附属特別支援学校）
教育条件整備と教育の問題 加藤 崇英
個性の尊重とその評価 村野井 均
人権保障と共生の教育 岡本 研二

4 平成 21 年度茨城大学社会連携事業支援経費プロジェクト

茨城大学社会連携事業教員地域連携プロジェクトに以下の 3 件が採択された。大学全体では 11 件であった。

① 林資源を活用したサステナブル教育教材の地域における実践・普及

申請者：大谷 忠先生

② 「水戸検定」の出題に協力する組織体制を作る

申請者：大槻 功先生

③ [水戸の城下町マップ] による郷土教育カリキュラム（対象；児童・生徒・社会人）開発

申請者：田中 健次先生

5 その他の連携活動

5-1 JICA 協力活動

JICA（国際協力機構）筑波センターから、中南米の算数、数学教員の日本での研修への協力を依頼された。附属中学校や大学関係者と協議して、次のような支援活動を実施した。研修したのはペルー 2 名、ボリビア 2 名、エクアドル 2 名、パラグアイ 2 名の計 8 名である。担当は JICA 筑波研修業務・市民参加協力課である。

第 1 回 平成 21 年 11 月 12 日

茨城大学教育学部附属中学校における研修（担当：附中校長、皆川、三浦、藤根）

1 年生数学授業参観（佐藤宗夫教員）

2 年生数学授業参観（菊池康浩教員）

研究討議（質疑応答）

教育学部における研修（担当：山崎事務長、三浦、藤根）

講義「日本における教員養成の実情」

加藤 崇英 先生

講義「日本における算数・数学教員養成の実情」

根本 博 先生

第 2 回 平成 21 年 12 月 2 日

附属教育実践総合センターにおける研修

講義「学生の学外におけるボランティア活動の教員養成への効果について」

三浦 忠雄センター長

報告「ボランティア活動に参加して」

学生 2 名
学生達と意見交換
茨城大学図書館見学

5-2 バリアフリー週間の企画

国土交通省関東運輸局茨城運輸支局から、「交通バリアフリー教室」開催の協力支援を依頼された。教育学部特別支援教育専攻の学生が応援を申し出てくれたので、実践センターの五十嵐 勇先生（ボランティア担当非常勤講師）がコーディネーターになって、「交通バリアフリー in 茨大」を中心に、バリアフリー教室を行った。

平成 21 年 11 月 30 日：映画上映会、展示（茨苑会館）

12 月 1 日：視覚障害者スポーツ経験・学習会（体育館）

指導・茨城県立盲学校教員

12 月 2 日：国土交通省バリアフリー教室（講堂前、大学構内）

12 月 3 日：同上 講演会（放送大学）

12 月 4 日：意見交換会

主催（バリアフリー教室部分）国土交通省関東運輸局茨城運輸支局

共催 茨城大学教育学部附属教育実践総合センター、教育学部地域連携委員会

社会福祉法人茨城県社会福祉協議会、茨城県立盲学校、放送大学茨城学習センター

社団法人茨城県バス協会、茨城県ハイヤー・タクシー協会

5-3 茨城放送出演

茨城大学総務課広報係を通じて、茨城大学副学長から、茨苑祭における茨城放送ラジオ（IBS）ふるさと放送局「茨大で語れば」への協力依頼があった。

教育学部 B棟ラウンジに特設スタジオが設けられ、実践センター五十嵐 勇先生の推薦を受けた教育学部学生が「学生ボランティア活動」について語った。

平成 21 年 11 月 14 日 13:00～13:15

出演学生 3 名

5-4 茨城大学創立 60 周年記念式典

「茨城大学創立 60 周年記念式典及び地域貢献シンポジウム」が開催され、教育学部・大学院を代表して、キャンパスエイド活動を報告した。小野副学長と地域連携委員長が協議し、準備した。

・平成 21 年 5 月 30 日（土）14:00～17:30

・常陽藝分センター 7 階大ホール

・「地域の教育的課題解決の取り組みに参画する中で創造する学生の新たな学びと大学教育」

①守屋 英子（学校臨床心理）「キャンパスエイド活動開始から 4 年を経て」

- ②高梨 裕子（大学院 2 年）「キャンパスエイトを体験して」
- ③鴨志田和子（茨城県立鹿島灘高校カウンセリングコーディネーター）
「フレックススクールにキャンパスエイトを迎えて」

6 地域連携委員会が支援した企画

- 6-1 研究発表「水戸藩の書」 平成 22 年 2 月 4 日（水） 16：20～17：50
茨城大学図書館会議室
教育学部学生による研究発表「地域ゆかりの文人の書について」
中心企画者 齋木 久美先生
- 6-2 子ども文化プロジェクト主催「子どものココロ再発見」 平成 22 年 2 月 13 日
情報文化課程の学生プロジェクト活動の報告会
中心企画者 島田 裕之、林 延哉、齋木 久美先生
- 6-3 シンポジウム「学生ボランティアの現状と課題」 平成 22 年 2 月 23 日
教育学部プレゼンテーションルーム
講話 田代 尚弘（教育学部長）、長谷川 真人（水戸市教育総合研究所）
講演 明石 要一（千葉大学教授）
中心企画者 三浦忠雄先生
- 6-4 プロジェクト「WET エducator 講習会 in 茨城大学」
平成 22 年 3 月 20 日（土） 9：30～19：30
教育学部 A 棟 2 階演習室
中心企画者 郡司 晴元先生
- 6-5 親子で楽しむワークショップ「親子で作る不思議な世界ーマグリットの世界を感じて」
平成 22 年 3 月 27 日（土） 10：00～15：00
茨城県近代美術館 講座室
中心企画者 片口 直樹先生
- 6-6 講演会 地域連携フォーラム「地域連携、茨城大学教育学部は何ができる？」
平成 22 年 3 月 2 日（火） 13：00～15：00
講演 中原 昭 氏（笠間日動美術館事務局長）
主催 附属教育実践総合センター